
「グリーンリカバリー推進すべき」74.3% コロナ禍と暮らしや環境問題への意識に関する調査

国際環境NGOグリーンピース・ジャパン（東京都新宿区、以下グリーンピース）は、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、生活者の環境問題や環境に配慮した持続可能な暮らしへの意識の変化を把握するために、国内在住の1000人（18歳～79歳）を対象にインターネットを通じて調査を行いました。

<調査概要>

対象：国内在住の1000人を対象に18～79歳で10代刻み。男女の人口構成比に合わせて実施
地域：すべての都道府県
方法：グリーンピースが楽天インサイト株式会社に委託してオンラインで実施
時期：2020年10月9日（金）～2020年10月11日（日）
有効回答数：1000人

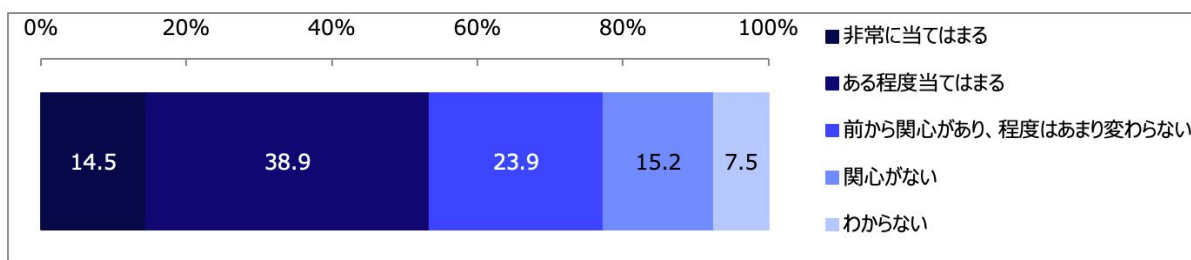
<調査結果の概要>

- 新型コロナウイルス感染症の流行の前に比べて、環境問題や環境に配慮した持続可能な暮らしに、より関心を持つようになった人は、「非常に当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせて53.4%。「前から関心があり、程度はあまり変わらない」は23.9%、「関心がない」「分からない」は22.7%
- 最も関心の高いテーマは、「気候危機・気候変動・地球温暖化」55.9%、ついで、「プラスチックごみ問題」44.4%、「ものを大切にすること」42.9%、「感染症と環境問題の関係」40.6%、「大気汚染」30.5%。なお、コロナ禍を機に、環境に関心を持つようになったグループでは、もっとも関心の高い項目は「感染症と環境問題の関係」51.3%
- コロナ禍を機に、買い物をする際の意識や行動は変わった人は、「非常に変わった」「ある程度変わった」を合わせると66.8%。どのように変わったかについて、もっとも多かった回答は、「あまり買い物をしなくなった・必要かどうかよく考えて買うようになった」59.6%、ついで、「オンラインでの買い物や宅配が増えた」37.0%、「衣服の購入が減った」35.9%、「できるだけ国産のものや地元産のものを選んで買うようになった」27.5%、「環境に配慮した商品やサービスを選ぶようになった」14.4%

- 日本も、欧州等が進む「環境に配慮した社会・経済の仕組みにすることで、コロナ禍からより良く復興するためのグリーンリカバリー（緑の回復）などの施策」を推進すべきと思う人は、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合わせて74.3%
- 「環境問題や環境に配慮した持続可能な暮らしに、より関心を持つようになったか」「買い物をする際の意識や行動は変わったか」「グリーンリカバリーなどの動きを日本でも推進すべきと思うか」「気候危機や自然破壊により、感染症リスクが高まることについて不安か」のいずれの設問でも、男性よりも女性のほうが、「当てはまる」「そう思う」と回答した割合が高かった

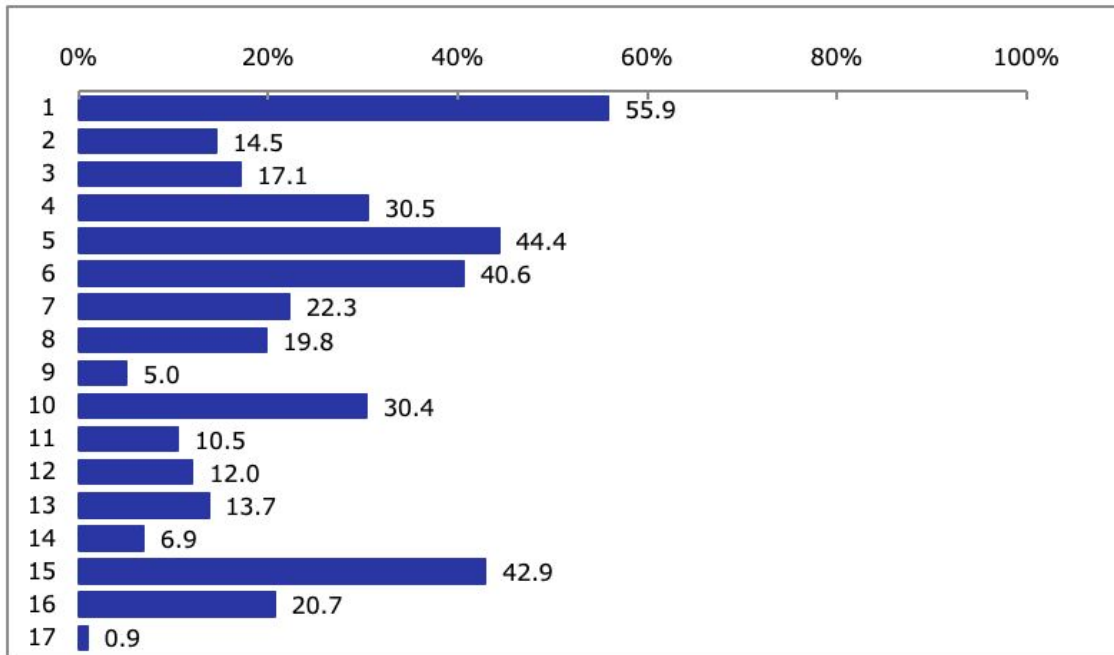
<調査結果>

Q1. 新型コロナウイルス感染症の流行の前に比べて、環境問題や環境に配慮した持続可能な暮らしに、より関心を持つようになりましたか。



- ・ 「非常に当てはまる」「ある程度当てはまる」が合わせて53.4%、「前から関心があり、程度はあまり変わらない」が23.9%だった。
- ・ 「関心がない」「分からない」はわずか、22.7%。
- ・ 「非常に当てはまる」「ある程度当てはまる」と回答したのは、女性の57.2%、男性の49.6%で、女性の方が多かった。

Q2. どのようなことに（より）関心をもつようになりましたか。（いくつでも） どのようなことにもともと関心がありますか。（いくつでも）



- 1 気候危機・気候変動・地球温暖化（55.9%）
- 2 森林火災（14.5%）
- 3 森林破壊（17.1%）
- 4 大気汚染（30.5%）
- 5 プラスチックごみ問題（44.4%）
- 6 感染症と環境問題の関係（40.6%）
- 7 環境問題全般（22.3%）
- 8 地産地消（19.8%）
- 9 菜食やヴィーガン、肉食を減らすこと（5.0%）
- 10 ごみを出さない生活（30.4%）
- 11 地方や郊外への移住（10.5%）
- 12 農業（12.0%）
- 13 無農薬や有機栽培の食品（13.7%）
- 14 ファッションの環境負荷（6.9%）
- 15 ものを大切にすること（42.9%）
- 16 大量生産、大量消費社会からの脱却（20.7%）
- 17 その他（0.9%）

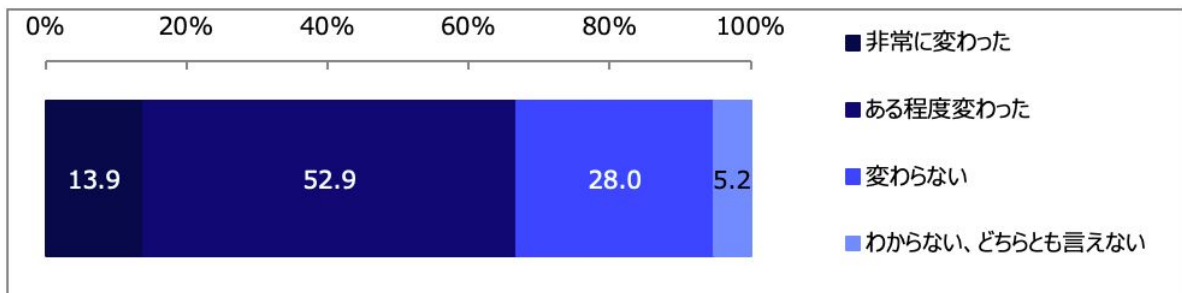
・最も多い回答は、「気候危機・気候変動・地球温暖化」55.9%、ついで、「プラスチックごみ問題」44.4%、「ものを大切にすること」42.9%、「感染症と環境問題の関係」40.6%、「大気汚染」30.5%となった。

・ Q1で「非常に当てはまる」「ある程度当てはまる」と回答した、コロナ禍を機に関心を持つようになったグループでは、最も多い回答は、「感染症と環境問題の関係」が51.3%、ついで、「気候危機・気候変動・地球温暖化」50.9%、「プラスチックごみ問題」40.8%、「ものを大切にすること」38.2%、「ごみを出さない生活」26.6%だった。

・ 一方、「前から関心があり、程度はあまり変わらない」グループでは、最も多い回答は、「気候危機・気候変動・地球温暖化」66.9%、「ものを大切にすること」53.6%、「プラスチックごみ問題」52.3%、「大気汚染」44.8%、「ごみを出さない生活」38.9%だった。

・ 「感染症と環境問題の関係」への関心について、コロナ禍を機に関心を持つようになったグループでは、「感染症と環境問題の関係」が51.3%で1位であったのに対し、前から関心があるグループでは、わずか16.7%だった。

Q3. コロナ禍を機に、買い物をする際の意識や行動は変わりましたか。



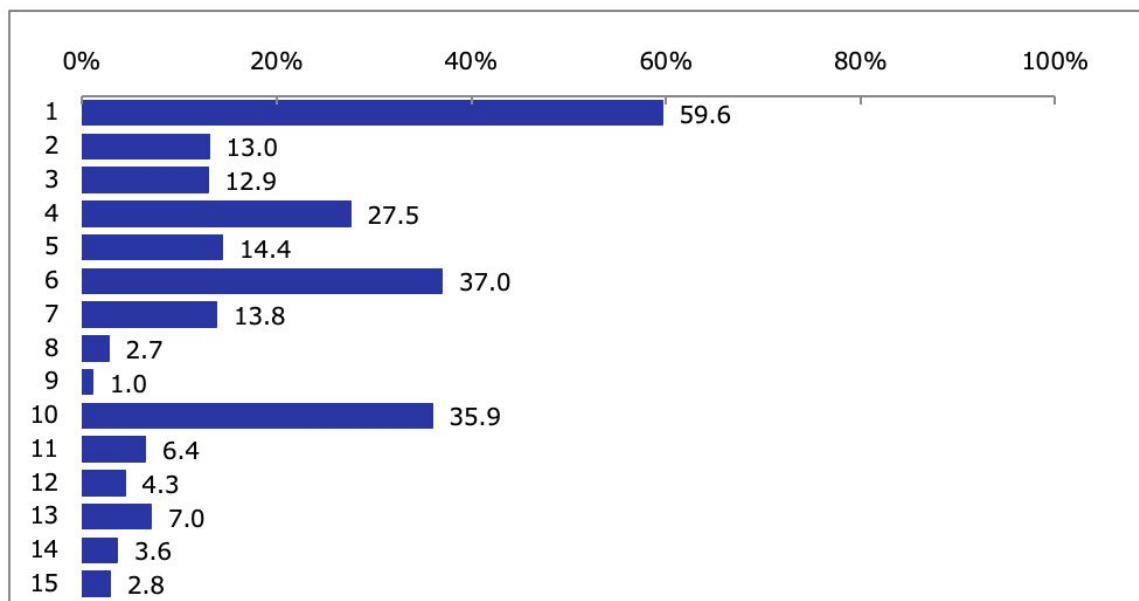
・ 「非常に変わった」「ある程度変わった」を合わせると、66.8%だった。

・ 「非常に変わった」「ある程度変わった」と答えたのは、女性の71.6%、男性の61.9%で、女性の方が多かった。

Q4. (Q3で、「非常に変わった」「ある程度変わった」の人)

コロナ禍を機に、買い物をする際の意識や行動はどう変わりましたか。当てはまるものを以下より選択してください。(いくつでも)

※以前から以下の行動をしている人は、その回答の選択は不要です。

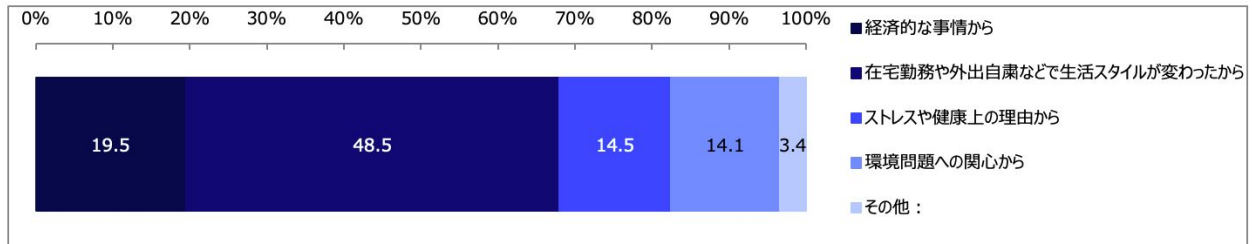


- 1 あまり買い物をしなくなった・必要かどうかよく考えて買うようになった (59.6%)
- 2 産直の野菜や食品を買うようになった (13.0%)
- 3 生産者や生産地・原材料表示を気にするようになった (12.9%)
- 4 できるだけ国産のものや地元産のものを選んで買うようになった (27.5%)
- 5 環境に配慮した商品やサービスを選ぶようになった (14.4%)
- 6 オンラインでの買い物や宅配が増えた (37.0%)
- 7 衣服類はオンラインで買うことが増えた (13.8%)
- 8 ファストファッションの製品を買うことが増えた (2.7%)
- 9 衣服の購入が増えた (1.0%)
- 10 衣服の購入が減った (35.9%)
- 11 衣服の購入の際は、品質を重視するようになった (6.4%)
- 12 衣服の購入の際は、価格の安さを重視するようになった (4.3%)
- 13 全般的に買い物をし過ぎてしまうようになった (7.0%)
- 14 使い捨てプラスチックの容器や包装のものを買うことが増えた (3.6%)
- 15 その他 (2.8%)

・もっとも多かった回答は、「あまり買い物をしなくなった・必要かどうかよく考えて買うようになった」59.6%、ついで、「オンラインでの買い物や宅配が増えた」37.0%、「衣服の購入が減った」35.9%、「できるだけ国産のものや地元産のものを選んで買うようになった」27.5%、「環境に配慮した商品やサービスを選ぶようになった」14.4%だった。

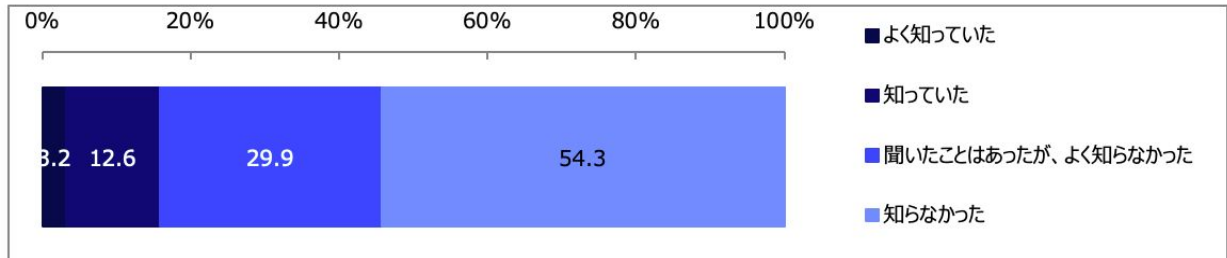
・「衣服の購入が減った」女性は47.1%、男性は22.8%で、女性の半数近くにあたり、また男女差が目立った。

Q5. (Q3で、「非常に変わった」「ある程度変わった」の人)
それはなぜですか。最も当てはまるものを一つ選択してください。



・最も多かった回答は、「在宅勤務や外出自粛などで生活スタイルが変わったから」48.5%で、半数近くを占めた。

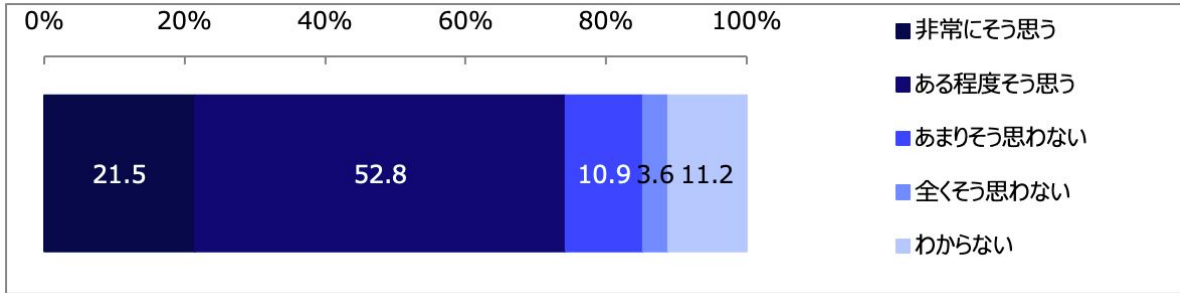
Q6. 気候危機対策など、環境に配慮した社会・経済の仕組みにすることで、コロナ禍からより良く復興しようという「グリーンリカバリー（緑の回復）」などの動きが、欧州など各国で広がっています。このことを知っていましたか。



・「よく知っていた」「知っていた」は、わずか15.8%で、一方、「聞いたことはあったが、よく知らなかった」「知らなかった」が84.2%で8割以上に上った。

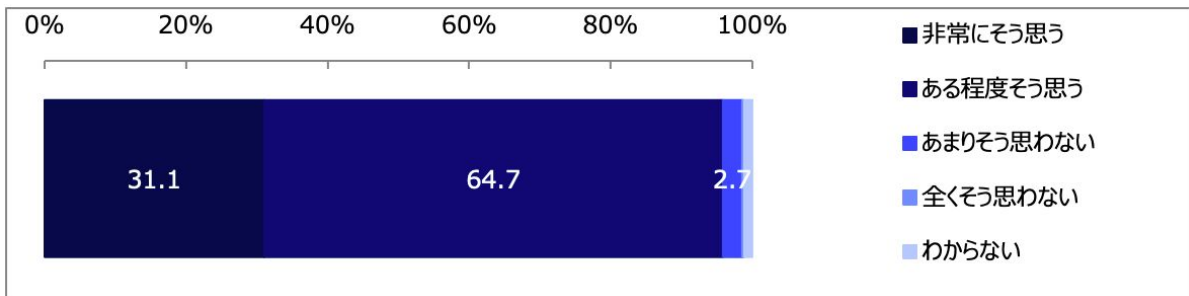
・「よく知っていた」「知っていた」と回答したのは、男性は18.5%、女性は13.1%だった。

Q7. 日本も、「環境に配慮した社会・経済の仕組みにすることで、コロナ禍からより良く復興するための施策」を推進すべきと思いますか。



- ・「非常にそう思う」「ある程度そう思う」が74.3%を占めた。
- ・「非常にそう思う」「ある程度そう思う」と答えた女性は78.8%、男性は69.8%で、女性の方が高かった。

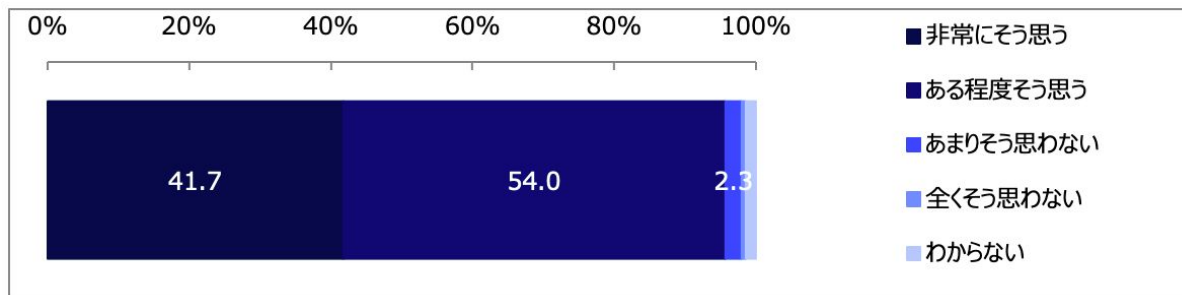
Q8. (Q7で「非常にそう思う」「ある程度そう思う」の方)
企業に対して、「環境に配慮した社会・経済の仕組みにすることで、コロナ禍からより良く復興するための施策」を推進してほしいと思いますか。



- ・「非常にそう思う」「ある程度そう思う」が95.8%であった。

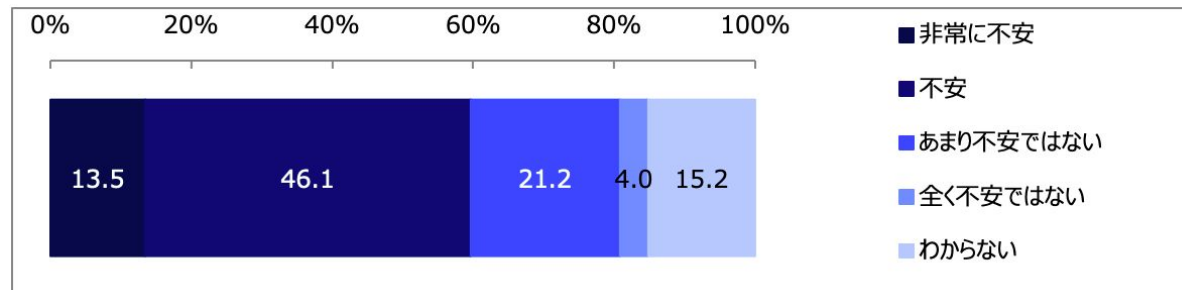
Q9. (Q7で「非常にそう思う」「ある程度そう思う」の方)

政府に対して、「環境に配慮した社会・経済の仕組みにすることで、コロナ禍からより良く復興するための施策」を推進してほしいと思いますか。



- ・「非常にそう思う」「ある程度そう思う」が95.7%だった。
- ・「非常にそう思う」は、Q8で企業に対しては、31.1%であった一方、政府に対しては41.7%で、政府に「推進してほしい」と思う割合のほうが高かった。

Q10. 気候危機や自然破壊により、感染症リスクが高まると指摘する専門家がいます。これについてどう思いますか。



- ・「非常に不安」「不安」が、59.6%に対して、「あまり不安ではない」「全く不安ではない」が25.2%だった。
- ・「非常に不安」「不安」と答えた女性は68.5%、男性は50.6%で、女性の割合の方がかなり高かった
- ・「非常に不安」「不安」を合わせた回答は、10代では75.0%、70代では74.5%で、ほかの年代に比べて多かった。

<本件に関するお問い合わせ>

広報担当：城野千里 TEL: 080-6558-4446 Email: chisato.jono@greenpeace.org

東京都新宿区西新宿8-13-11NFビル2F www.greenpeace.org/japan/

グリーンピースは環境保護と平和を願う市民の立場で活動する国際環境NGOです。